

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラムポスター一覧

(一般型)

【在外事務所】

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
1702一在01	カンボジア事務所	1	カンボジアの農業協同組合(農協)の現状を理解し、農協の運営促進のために有効な広報資料の作成(①プロジェクトPR資料②農協紹介パンフレット)
1702一在02	東ティモール事務所	1	JICA東ティモール事務所広報活動の補佐業務
1702一在03	東ティモール事務所	2	東ティモール国立大学における教育・研究能力強化活動の補助
1702一在04	キルギス共和国事務所	1	野菜種子生産農家(TOT研修生)が実施する農民学校(FFS)に関するレビュー調査及びFFS参加者の営農状況プロフィール調査
1702一在05	エルサルバドル事務所	1	在米エルサルバドル人コミュニティによるモラサン県教育振興プロジェクトにおける数学補完教育
1702一在06	ブラジル事務所(サンパウロ出張所)	1	ブラジル日系社会に対するJICA協力実績取り纏め
1702一在07	ペルー事務所	1	JICAペルー事務所での広報手法の改善、事業効果に関する広報資料の作成
1702一在08	ニカラグア事務所	1	ニカラグア国におけるコミュニティ防災体制の課題把握と日本との比較(調査・分析・提案及び業務補助)
1702一在09	ニカラグア事務所	2	モニタリング強化を通じた、活動成果のエビデンスとなるデータ整理
1702一在10	マラウイ事務所	1	中規模灌漑開発維持管理能力強化プロジェクト(MIDP II)における専門家業務補佐
1702一在11	ブルキナファソ事務所	1	農産品多様化推進
1702一在12	カメルーン事務所	1	コメ振興プロジェクトにおける研修実施および一般農家への活動モニタリング
1702一在13	ソロモン支所	1	村落が主体となったヘルシー・ビレッジ・モデルの構築

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在01
■部署名/事務所名:	カンボジア事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	ビジネスを志向したモデル農協構築プロジェクト		
■テーマ			
カンボジアの農業協同組合（農協）の現状を理解し、農協の運営促進のために有効な広報資料（英語）を以下2種類作成します。①プロジェクトPR資料、②農協紹介パンフレット（プロジェクトが支援する2つの対象農協が、外部に向けて強みをアピールするためのもの）			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
カンボジアでは農業がGDPの35%を占める重要な産業であり、1966年までに512の農協が設立されていましたが、1970年以降、ポルポト時代に農協組織は解体されました。1979年以降の新政権ではクロムサマキという農家グループが組織されましたが、再び消滅。その後政府は2001年に「農業協同組合及び農業協同組合連合会並びに農業協同準備組合の設立と機能に関する国王令」を制定。2013年には農協法が制定され、農林水産省による農家の組織化推進の結果、農協数は再び着実に増加しています。しかし多くの農協では信用事業を活動の中心とし、市場経済の下で組合員の所得向上に資する農産物の共同出荷、加工品の生産等、ビジネス志向の活動はあまり行われていません。組織運営基盤が整備されていないばかりか、事業を計画・実施するためのノウハウ・情報が欠如しており、農協の事業運営能力の向上が急務となっています。本プロジェクトは、農協の組織化や運営に必要な計画づくり、農協の運営能力強化、データベース構築、パイロット事業の立案・実施、及び農協のビジネスネットワーク化などを通じ、ビジネスを志向した農協モデルの普及を目指すものです。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
プロジェクトでは対象4州（タケオ州、コンポンスプー州、スヴァイリエン州、コンポンチャム州）において、農協モデル構築支援を行っています。活動の一つである「農協フォーラム（*）」では、農協による農産物販売、企業（肥料会社やマイクロクレジット会社など）による商品説明等を通じ、参加者間のネットワーキングを目指しています。しかし企業側はパワーポイントを活用したりパンフレットを配布するなど、分かりやすい商品説明を行う一方、農協側は口頭での説明であり、ビジネスパートナーを探している企業や他農協に対し、その強みを十分に紹介できていません。本インターンシップ生には、プロジェクトによる指導のもと、農林水産省職員や農協役員へのインタビューを行い、当地農協の現状およびプロジェクトの内容を理解した上で、対象農協の強みを紹介するパンフレットを作成することを期待しています。作成するのはプロジェクト概要PR資料（パンフレット／リーフレット）、および対象2農協にかかる農協紹介パンフレットで、特に農協紹介パンフレットは来年度開催する農協フォーラムにて配布し、これを見本として他農協にも制作を勧めていく計画です。			
■参考情報			
プロジェクトHP： https://www.jica.go.jp/project/cambodia/019/index.html (*）農協フォーラム： https://www.jica.go.jp/project/cambodia/019/news/20170809.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
農協への視察、農協役員へのインタビュー			
■受入時期・期間			
2018年1月から2月の間、1か月程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由：			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可			
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
TOEIC600点以上（カウンターパートとの意思疎通が必要なため）			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用 <input type="checkbox"/> PC貸出し <input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項):			
■備考・留意点			
・プロジェクトオフィスはプノンペンですが、対象農協へのインタビューのため地方出張（プノンペンから車で2～4時間程度、農村部）が含まれます。 ・作成するパンフレットは、プロジェクトにてクメール語に訳す可能性があります。			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在02
■部署名/事務所名:	東ティモール事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	東ティモール事務所		
■テーマ			
JICA東ティモール事務所 広報活動の補助業務			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>日本は東ティモール国の独立（2002年）より以前の1999年から支援を行っており、2018年は支援開始から20年目を迎えます。東ティモール国も、2017年に独立から15周年を迎え、復興期から開発期に移行しているところです。この機に、JICA東ティモール事務所ではJICA事業の広報に注力していきたいと考えており、例えばプロジェクトマップの新規作成や、各種広報資料の更新などを行います。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>【プロジェクトマップ作成】JICAや日本大使館が取りまとめた過去の支援状況に関する情報を元に、過去のプロジェクトの内容とその位置を東ティモール国の地図上に配置し、過去の支援状況が一見してわかる資料を英語・日本語で作成します。</p> <p>【広報資料の更新】パンフレットの更新（英語・現地語）、日本語パンフレット（簡易版）の新規作成、英語のHPの更新、プロジェクトの内容を伝えるProject Information Sheetの作成（英語・日本語）、プロジェクトニュースの作成などを行います。</p>			
■参考情報			
特になし。			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
必要に応じて、プロジェクトサイトの視察を行います。			
■受入時期・期間			
2018年1月 から 3月 までの 2ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由：			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可			
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し <input type="checkbox"/> PC自身で準備 <input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): _____			
■備考・留意点			
https://www.jica.go.jp/easttimor/index.html			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在03
■部署名/事務所名:	東ティモール事務所	■募集人数 (人)	2
■課名/プロジェクト名:	東ティモール大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2		
■テーマ			
東ティモール国立大学における教育・研究能力強化活動の補助			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>東ティモール唯一の公的高等教育機関である東ティモール国立大学は、国づくりを担うべき技術系人材の育成の観点からインドネシア時代の旧東ティモール・ポリテクニクを母体として工学部を設置したが、教官が指導に十分な知識を有していないことや、独立に伴う1999年8月の混乱によって教育機関施設を含む物的インフラの7割以上が破棄されて使用不可能であることから、教育の質が著しく低いことが問題となっていました。我が国はこれまで、機材調達や技術協力を通じて同大学工学部の能力強化を行ってきており、今回のプロジェクトでは、同大学工学部において、社会ニーズに対応したマネジメント・教育・研究の改善を行うことにより、同工学部の社会ニーズに対応した教育・研究機能の強化を図ることが目的となっています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>・基礎（初等）数学、基礎物理の補講 ※教職員の能力強化が本プロジェクトの目的ですが、間接裨益者である工学部生への補講を行って頂く予定です。 ・プロジェクト関連で開催される各種会議等の準備・実施補助、工学部学部学生に対する補講内容：希望者あるいは工学部教官が指定する学生に対して、 1) 初等数学の基本事項（微分、積分を含む）をゆっくり納得できるまで指導する。いわゆる講義方式でなく、個別指導に近い形を考えている。希望者数、時間数などは時間割の関係を考慮して現地で調整する。 2) 初等物理は学科構成を考えて、ニュートン力学の初歩に中心を置くこと。具体的なプログラムの進め方は本工学部の教官、インターン希望者（決定者）と相談しながら決定していく。</p>			
■参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2018年2月から3月までの2ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由：			
■希望する人材		■希望する分野	
大学院生のみ		工学部（対象学科：土木、機械、電気・電子、情報、地質・石油）	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
英語での教育が可能である			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input type="checkbox"/> 電話等の利用 <input type="checkbox"/> PC貸出し <input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input type="checkbox"/> その他（提供可能な事項）:			
■備考・留意点			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在04
■部署名/事務所名:	キルギス共和国事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	キルギス輸出のための野菜種子生産振興プロジェクト		
■テーマ			
野菜種子生産農家 (TOT研修生) が実施する農民学校 (FFS) に関するレビュー調査およびFFS参加者の営農状況プロフィール調査			
■テーマ (プロジェクトなど) の概要			
<p>キルギスにおいて農業はGDPの22% (2011年) を占め、人口の3割以上が従事する基幹産業です。キルギスは乾燥し晴れの多い気候と豊かな水資源があるため、旧ソ連時代は種子生産産業が発展していましたが、ソ連崩壊に伴い集団農場制度が解体され、農業生産性が著しく後退しました。近年では民間主導による種子生産体制が整いつつありますが、種子生産技術及び体制の未整備と人材不足、輸出を担う企業ノウハウの不足、種子生産に必要な検査技術の不足により、野菜種子の生産と輸出は十分な実績を出すに至っていません。本プロジェクトでは、キルギスの農家が高品質の種子を生産し、海外種苗会社から委託を受け、輸出を通して安定した収入を得ることを目標にしています。現在、国内4州の農家23名を対象にTOT (Training of Trainers) 研修にて野菜種子生産技術を指導し、TOT研修生は学んだ知識をFFS (Field Farmers School) という形で更に周辺農家に普及をしています。また、昨年研修生達は採種組合を設立し、輸出に向けてキルギスで野菜種子ビジネスを確立するためにプロジェクトと一緒に奮闘しています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>(1) 2017年にTOT研修生18名が実施した農民学校 (FFS) において、FFS参加者を対象にレビュー調査 (FFS参加目的、FFS参加回数、FFSを受講することにより採種栽培を始めた作物、FFSにて新たに学んだこと、FFS実施方法の改善点やプロジェクトへの意見等) を実施し、翌年のFFSに活かすための基礎データとする。 (2) FFS参加者の営農状況 (栽培面積、栽培作物、販売額、販売先、種子の入手方法、家族構成、農機の保有状況、農家収支、将来の営農計画、組合加入状況等) を調査し、モニタリングの基礎データとする。 (3) プロジェクトが行うFFSモニタリングに参加するとともに、FFSモニタリングの実施補助を行う。</p>			
■参考情報			
<p>JICAウェブサイト 輸出のための野菜種子生産振興プロジェクト・プロジェクトニュース https://www.jica.go.jp/project/kyrgyz/001/index.html</p>			
■参加 (同行) 可能な行事・視察等			
チュイ州・タラス州・オシュ州・ジャラルバード州におけるFFS研修、FFSモニタリング、種子生産農家視察への同行、その他イベントや会合への参加等。			
■受入時期・期間			
2018年2月上旬から3月下旬までの2ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由:			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可		農学	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
<ul style="list-style-type: none"> ・学部生においては農学専攻、大学院生においては学部での農学専攻や協力隊等での野菜栽培経験があれば望ましいです。 ・農業分野に限らず、農村調査等の調査経験があれば望ましいです。 ・コミュニケーションが得意で、柔軟性、新しい環境に適応力がある方の応募をお待ちしています。(英語またはロシア語、日本語等言語を問わずローカルスタッフやプロジェクト専門家と必要なコミュニケーションが取れること、または取る意欲があること。) 			
■提供可能な執務環境等 (可能な項目にチェックを入れてください。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項):			
■備考・留意点			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在05
■部署名/事務所名:	エルサルバドル事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	モラサン県における数学教育支援		
■テーマ			
在米エルサルバドル人コミュニティによるモラサン県教育振興プロジェクトにおける数学補完教育			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
モラサン県の位置するエルサルバドル東部地域は内戦の影響を強く受けており、貧困指数の高い市町村及び海外送金に依存する家族が多く存在することから、産業の育成や雇用の創出を特に必要とする地域です。JICAでは、大統領府を通じて東部地域開発マスタープランの改訂（2015-2025）を行い、また同マスタープランに位置づけられた経済開発及び社会開発分野の協力を実施しています。東部地域に対しては在米エルサルバドル人コミュニティからの海外送金による開発支援も行われており、JICAエルサルバドル事務所は2017年3月から在米エルサルバドル人団体とコンタクトを取り、連携の可能性を検討しています。その中で、PEOF（Perquin Educational Opportunities Foundation）による教育を通じたモラサン県住民の生活向上を支援する「Amun Shea」が実施する補完教育に対し、高校レベルの日本の数学教育の経験を活用する検討を進めています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
JICAエルサルバドル事務所と相談の上、活動計画を立て、同事務所の支援を受け、対象地域（モラサン県ペルキン）を中心に以下の活動を実施していただきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・対象地における高校生及び教員を対象にした数学補完教育にかかるニーズを把握するための調査（学力測定等） ・数学補完教育人材の調査を行い、国内の若手人材を発掘 ・（可能な場合は、パイロットの補完授業を実施し、）具体的な補完教育計画を検討し、JICA及びAmun Sheaに提案 			
■参考情報			
プロジェクトサイト（モラサン県ペルキン）とJICA事務所（首都サンサルバドル）の2か所での活動（いずれもホテル滞在）を想定しております。			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
現在実施中の技術協力プロジェクト「エルサルバドル初中等教育算数数学教育指導能力向上プロジェクト」等実施中または終了済の協力案件の視察・訪問等			
■受入時期・期間			
2018年1月 から3月 までの3ヶ月間程度 <input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由：			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可		スペイン語で会話、読み書きができること	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
数学教育に関する知見を有すること。途上国の開発及びエルサルバドルにかかる基礎的な知識を有すること。			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input checked="" type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): 執務スペース内でのPC使用は可能。			
■備考・留意点			
当国での安全な滞在のために、エルサルバドル事務所から必要な安全情報（治安、災害、健康管理）提供などの支援を行います。			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在06
■部署名/事務所名:	ブラジル事務所 (サンパウロ出張所)	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	サンパウロ出張所業務1班		
■テーマ			
ブラジル日系社会に対するJICA協力実績取り纏め			
■テーマ (プロジェクトなど) の概要			
<p>JICAは日系社会に対する支援を1963年より行っています。また、ブラジル国内にはJICAの前身団体が入植を実施したいわゆる「直営移住地」が8か所存在し、移住地の発展のための各種支援を行ってきました。しかしながら、現状、JICAが50年以上に亘り支援してきた各種施策の情報を簡潔にまとめた業務資料が不足しており、これまでの具体的支援内容をまとめた資料を作成する必要があります。</p> <p>このため、現存する報告書等資料、データを概観し、必要に応じて関係者へのインタビュー、現地訪問を通じ情報を収集し、取りまとめる作業に今年度から取り組んでいます。本テーマはこの事務所作業と協働するものです。また、移住地の入植者、居住者の変遷、及びその背景に関しても関係者へのインタビュー等を通じて確認し、今後の日系社会との協力の在り方を検討する上での参考とします。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>インターンは、既存の資料の確認、読み込みからスタートし、関係者へのヒアリング、現地訪問を通じ大まかに以下2つの資料を作成していただきます。</p> <p>①JICA直営移住地に対する支援概要に関する資料 ②JICA直営移住地以外の日系移住地に対する支援に関する資料</p> <p>①については、既存の資料を中心に取りまとめ、②については既存の情報、ヒアリング調査に基づき、日本語教育支援、営農支援等、テーマ毎の取り纏めも含めて実施していただきます。</p>			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
事務所スタッフが各事業を通じ日系社会を訪問する際に同行可能			
■受入時期・期間			
2017 年 12月 から 2月 までの 3ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由:			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可			
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
中南米日系社会に対する関心			
■提供可能な執務環境等 (可能な項目にチェックを入れてください。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し <input type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): _____			
■備考・留意点			
インターン活動に現地語(ポルトガル語)はさほど必要ないが、滞在するうえでポルトガル語の素養があればなお可。			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在07
■部署名/事務所名:	ペルー事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	事業広報		
■テーマ			
JICAペルー事務所での広報手法の改善、事業効果に関する広報資料の作成			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>JICAはペルーにおいて、過去60年近くに亘り、研修事業にはじまり技術協力、無償資金協力、有償資金協力、ボランティア等、各種スキームを通じた支援を行っています。他方、JICA事業に関する広報については、ターゲットの設定、適切なメディアの選定（HP、プレスリリース、Facebook等）、メディアに応じた内容の工夫など、今後の改善の余地があります。また、過去のJICA事業に関する定性的、定量的なインパクトをまとめた資料がなく、ペルー向け、日本向けに事業の成果をまとめた広報資料の作成が急務となっています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>1. JICAペルー事務所における広報活動の現状と課題をレビューした上で、広報の改善に向けた提案を行い、可能な範囲で実行していただきます。具体的には、報道機関へのプレスリリースの作成・配布に関する手順作成や、SNSでの発信の改善手法の検討（HP等との連携含む）、ラジオを通じた広報検討、広報実績取りまとめ方法の改善等です。</p> <p>2. 過去のJICA事業に関する既存の情報（事後評価結果、ペルー事務所による受益者へのヒアリング、統計資料等）をもとに、対ペルー、対日本の両方の観点から、JICA事業の成果、インパクトに関する広報資料を作成します。具体的には、事業に関する情報収集、取りまとめ、分析を行った上で、広報資料として取り上げる内容を検討し広報素材を作成します。現時点では広報素材としてパンフレットを想定していますが、他のメディアについてもインターンからの提案を歓迎します。</p>			
■参考情報			
<p>https://www.jica.go.jp/peru/index.html https://www.youtube.com/user/jicaperu/</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<p>2018年 1月 から 3月 までの 2ヶ月間程度</p> <p><input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由: 本業務の前提として、在外専門員を活用しての情報収集調査を予定しているため。</p>			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可			
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): _____			
■備考・留意点			
必須ではないが、スペイン語能力があることが望ましい。			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在08
■部署名/事務所名:	ニカラグア事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	中米広域防災能力向上プロジェクト(BOSAIフェーズ2)		
■テーマ			
ニカラグア国におけるコミュニティ防災体制の課題把握と日本との比較(調査・分析・提案及び業務補助)			
■テーマ(プロジェクトなど)の概要			
<p>中米広域防災能力向上プロジェクト(BOSAI)は、特にコミュニティレベルにおける防災能力向上を目的に、中米6カ国を対象に2007年から2012年に掛けて第1フェーズが実施されました。こうした成果を国レベルの防災体制に取り込んでいくことで、持続的なコミュニティ防災の実施・普及体制を目指し、2015年7月より同プロジェクトの第2フェーズが開始されました。ニカラグアにおいては1992年に発生したニカラグア津波を教訓として、津波防災・津波避難を促す取り組みを実施しているほか、マルチハザードでコミュニティに裨益する教材の作成等を行っています。</p> <p>阪神淡路大震災や東日本大震災を受けて、日本では現在コミュニティ防災(地域防災)が盛んに実施されていますが、コミュニティ防災を取り巻く状況(制度・実施体制・住民意識等)は各国で異なることから、必ずしも日本の知見がそのまま活用できる訳ではありません。また、持続性を担保するためには、既存の仕組み・プログラム等当該国の制度に着目して、これらを有効活用して実施していくことが肝要となります。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>インターンは、コミュニティ防災に焦点を当てながら、下記の業務の中から実習を割り当てます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の津波避難における成功事例・失敗事例の文献調査 2. 日本のコミュニティ防災全般(主に避難対策)における災害種ごとの課題把握 3. 上記を踏まえたニカラグア国のコミュニティ防災体制の課題の把握と関係者への発信(必要に応じて現場調査を実施) 4. その他、プロジェクト関連の業務補助 <p>なお、業務の実施に際してはプロジェクト専門家と議論しながら、進めて行くことを基本とします。</p>			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/oda/project/1200297/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
プロジェクトが主催する各種ワークショップ・研修等			
■受入時期・期間			
2018年1月から3月 までの 3ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由:			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可			
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
防災または統計学に精通し、言語を問わない対人コミュニケーション力を有することが望ましい。			
■提供可能な執務環境等(可能な項目にチェックを入れてください。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input type="checkbox"/> 電話等の利用 <input type="checkbox"/> PC貸出し <input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input checked="" type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): オフィス消耗品			
■備考・留意点			
<p>防災とは、①災害リスクのある地域に住まない対策(土地利用計画・居住制限等)、②災害リスクはあるが、それを軽減する対策(ハード対策等)、③災害発生を前提とした備え、災害対応力の強化の組み合わせです。このような総合的な対策の一つと言う視点でコミュニティ防災を位置付け、その意義と課題を探る柔軟な思考が求められます。</p>			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在09
■部署名/事務所名:	ニカラグア事務所	■募集人数 (人)	最大2人
■課名/プロジェクト名:	ニカラグア国・チョンタレス保健管区とセラヤセントラル保健管区における母と子どもの健康プロジェクト		
■テーマ			
モニタリング評価を通じた、活動成果のエビデンスとなるデータ整理			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>ニカラグア政府は、PHC（プライマリ・ヘルス・ケア）概念に基づき、病気の予防、健康増進、診療・診断を包括的に実施する「家族地域保健モデル（MOSAFIC）」を保健戦略として導入しました。医師・看護師・准看護師で構成される医療チームと保健ボランティアなどで構成されるコミュニティネットワークを第一次保健レベルで主力を担う家庭地域保健チーム（ESAFIC）として、全国でMOSAFICを展開しています。医療チームは、数的充足の努力が続けられているものの、医療サービスの質の向上、遠隔地住民の医療サービスへのアクセス改善などが、喫緊の課題となっています。また、出産前後の女性が医療施設に近い場所で過ごすためのマタニティホームの普及はニカラグアの特徴であるが、中には、利用度が上がらないホームがあります。このような状況のもと、国際的に重要視されている妊産婦と2歳未満児の健康リスクの低減を目指し、第一次レベルの保健施設における母子保健サービス提供能力の強化、地域住民による母子保健活動の主体的な実践の促進、母子保健サービスに関する行政機能強化を3つの柱とした技術協力プロジェクトを実施中です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>プロジェクト活動は、パイロット地区で有効性が実証されたESAFIC活動の巡回指導のほか、母子保健研修などを、現在、全ての協力対象地域へ拡大し展開している。これらの活動において、モニタリング評価から活動成果の分析とフィードバックを繰り返し、保健サービスの質の向上と定着化を図っています。インターンは、下記活動のモニタリング評価を通じて、活動成果の整理を行っていただきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ESAFIC活動（PHCをベースとする保健ボランティアが参加する地域保健活動） 巡回指導（レファラル・カウンターレファラル、妊娠36週以降の妊婦管理） <p>その他、ESAFIC活動、レファレル・カウンターレファレル改善や母子保健研修などを指導するプロジェクト専門家の補助業務をしつつ、インターンの希望と能力に応じて、臨機応変に実習内容を割り当てることとします。</p>			
3			
プロジェクトホームページ： https://www.jica.go.jp/project/nicaragua/008/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
県や市レベルで開催される保健技術審議会、プロジェクト運営委員会、コミュニティネットワークが参加する保健セクター会議など			
■受入時期・期間			
2018 年 1月 から 2月 までの 最大1か月間			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由：			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可		特になし	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
スペイン語検定4級あるいはそれと同等以上のスペイン語力			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他（提供可能な事項）: _____			
■備考・留意点			
オフィスワークのほか、フィールド活動が多くなります。			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在10
■部署名/事務所名：	マラウイ事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名：	中規模灌漑開発維持管理能力強化プロジェクト(MIDPⅡ)		
■テーマ			
中規模灌漑開発維持管理能力強化プロジェクト(MIDPⅡ)における専門家業務補佐			
■テーマ(プロジェクトなど)の概要			
<p>農業はマラウイの基幹産業であるが農業生産性向上については未だ多くの課題を抱えています。マラウイ政府は国家中期開発戦略(MGDSII)において、灌漑および水開発を優先開発分野のひとつに据えており、天水に依存した農業生産から灌漑農業への転換と、小中規模灌漑施設の普及による食糧と換金作物の生産量向上などの実現を目指しています。</p> <p>本事業の先行事業である「中規模灌漑開発プロジェクト(MIDP)」では、マラウイ南部州のプロジェクト対象地域において、計画・施工管理から維持管理にかかる現場レベルの灌漑技官及び農業普及員などの灌漑農業事業関係者の能力強化、およびモニタリング・評価体制の構築が推進されました。それらの能力強化のプロセスは「MIDP研修アプローチ」として整理され、高い有効性が確認されました。本事業では、特に灌漑局(本部および灌漑サービス区事務所:ISD)を中心に、MIDP研修アプローチの面的展開が円滑に実施されるよう、マラウイ政府を支援するとともに、北・中部州でパイロット事業を行い、灌漑事業関係者の能力強化を図っています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>プロジェクトでは現在、ドーワ県およびムジンバ県のパイロットサイトで農民参加型の灌漑施設改修指導、水管理・施設維持管理状況調査を実施しています。また、灌漑施設を活用した作付計画や市場アクセス改善のための指導を実施しています。インターンシップ活動ではJICAプロジェクト専門家が実施する以下の活動を補佐することを想定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 農民が実施する既設灌漑水路の改修工事に関する施工管理・資材管理方法の指導 2) 農民参加型灌漑事業に対する県灌漑職員及び普及員の意識向上促進のための指導(整備された灌漑施設における効果的な作付や市場へのアクセス改善のための指導を含む) 3) 県灌漑職員による洪水災害対策工事の機能評価および対策案検討のための指導 <p>(なお、インターンシップ期間中は雨期であり灌漑施設整備活動は中断されるため、活動現場への訪問頻度は少なくなります。2月下旬～3月上旬にかけて5日間の県灌漑技術者研修を実施する予定であるため、この研修への参加も想定されます。)</p>			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/oda/project/1400325/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
ムジンバ県及びドーワ県のパイロットサイトへの同行。			
■受入時期・期間			
2017年1月 から3月 までの 1ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由：			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可		農業土木系が望ましい、農業系も可	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
実際にコミュニケーションが可能な語学力を有すること 自分で考えて自ら提案、行動ができること フィールド調査経験があれば望ましい			
■提供可能な執務環境等(可能な項目にチェックを入れてください。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input type="checkbox"/> 電話等の利用 <input type="checkbox"/> PC貸出し <input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): _____			
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・受入時期は現時点では、「2018年1月から3月のうち1ヶ月間程度」とするが、追って相談します。 ・中部カスングを拠点に、ドーワ県及びムジンバ県への出張可能性があります。 ・マラリア汚染国のため、マラリア予防薬の服用等の対策が必要です。 			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在11
■部署名/事務所名:	ブルキナファソ事務所	■募集人数 (人)	1人
■課名/プロジェクト名:	・大豆バリューチェーン強化 (個別専門家) ・ゴマ生産支援プロジェクト		
■テーマ			
農産品多様化推進			
■テーマ (プロジェクトなど) の概要			
<p>ブルキナファソでは、農業はGDPの約3割、就労人口の約8割を担う基幹産業です。また、総人口の約8割及び貧困人口の約9割が農村地域に居住し、食糧安全保障や貧困削減の観点からも重要なセクターです。</p> <p>現在同国では金・綿花が輸出の多くを占めますが、両財は国際価格の変動の影響を受けやすいため、安定的かつ持続的な経済成長の実現のためには輸出産品の多様化が課題となっています。加えて、もともとサヘル地帯の厳しい気候にありますが、近年の気候変動の影響を受け、一層厳しい状況に見舞われている農家も存在します。</p> <p>JICAは、一次産品輸出への依存体質からの脱却と農村振興を実現させるべく、バリューチェーン構築を中心とした国内における農産品への付加価値付けと消費促進、さらには近隣国を対象とした輸出振興を目指しています。その実施に際しては、日本がアフリカ開発会議で提唱した「アフリカの食と栄養改善イニシアティブ (IFNA)」や「アフリカ稲作振興のための共同体 (CARD) イニシアティブ」の枠組みを活用してゆきます。これら支援現場の最前線及びJICA事務所での業務を経験いただきます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>・「大豆バリューチェーン強化 (個別専門家)」の業務補助。 大豆バリューチェーンの構築を目指して関係者 (大豆流通業者・大豆加工業者・飼料業者・養鶏業者・公的サービス) 間の連携強化・組織化強化を支援する専門家です。</p> <p>具体的な活動例: 各種調査同行・分析作業補助・ワークショップ運営補助等</p> <p>・「ゴマ生産支援プロジェクト」営農/栽培分野専門家の業務補助。 主に同国研究者と協働をし、ゴマ栽培 (種子生産を含む) に関する技術指導を行う専門家です。</p> <p>具体的な活動例: 播種作業等の補助・各種調査及び指導同行・分析作業補助・ワークショップ運営補助等</p> <p>・JICA事務所農業班・広報・総務業務補助。 具体的な活動例: JICA websiteやfacebookに掲載する記事の作成・掲載、パンフレットの更新等。</p> <p>※活動内容は現地の状況等により、変更の可能性があります。また応募者から積極的な提案があれば検討します。</p>			
■参考情報			
<p>・JICAブルキナファソ支援概要 (プロジェクト紹介を含む) https://www.jica.go.jp/burkinafaso/</p> <p>・ブルキナファソの大豆について https://www.jica.go.jp/burkinafaso/office/others/ku57pq00001v1lox-att/soybean.pdf</p>			
■参加 (同行) 可能な行事・視察等			
<p>・実施中のJICAプロジェクト視察</p> <p>・派遣中のJICA青年海外協力隊活動視察</p>			
■受入時期・期間			
2018年1月 から3月 までの間 1~2ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由:			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可		農学部、経営・商学・経済・社会学部を希望するが他分野でも可	
■応募資格以外に受入に必要な要件			
・仏語 (日常会話レベル、仏検4級相当以上)			
■提供可能な執務環境等 (可能な項目にチェックを入れてください。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用 <input type="checkbox"/> PC貸出し <input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input type="checkbox"/> その他 (提供可能な事項):			
■備考・留意点			
<p>・ブルキナファソは、アフリカの中でも最も貧しい国の一つです。仕事のやりがいのある国ではある一方、生活インフラは脆弱な部分が多々あります。健康・安全管理に十二分に注意をして活動できる方のみ受け入れ可能です。</p>			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	1702-在12
■部署名/事務所名:	カメルーン事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	コメ振興プロジェクト		
■テーマ			
コメ振興プロジェクトにおける研修実施および一般農家への活動モニタリング			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>カメルーンにおいて農業は基幹産業であり、就業人口の約6割を占めている。また、近年都市部を中心として米食やパン食が好まれるようになり、国家稲作振興戦略文書（以下NRDS）によれば、都市部のコメ消費量は37.3kg/人・年、農村部のコメ消費量は19.4kg/人・年と記されており、主食の範囲が広がりつつある。しかしながら、増加するコメ消費量に対し、国内のコメ生産量は2014年には19万トンに過ぎず、その多くを輸入に頼っており2010年から2014年の5年間の平均で56万トンのコメが輸入されていることから、食糧安全保障の観点および国際貿易収支の不均衡は正のためにも、コメの自給率を上げる事が急務となっている。</p> <p>カメルーンは、「アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）」の支援対象国でもあり、2009年には策定されたNRDSでは、10年間で国内コメ生産量を10万トン（籾）、推計から約97万トン（籾）に増産することを数値目標としており、国内稲作振興によるコメの国内自給を目標に掲げている。</p> <p>こうした背景・政策に基づいて「熱帯雨林地域陸稲振興プロジェクト（PRODERiP, 2011年5月～2016年5月）」が実施されてきたが、その成果を引継ぎ、課題であるイネ種子生産体制の強化、また生産性の高い水稲地域の生産量増加を目指して「コメ振興プロジェクト」が要請され、2016年6月から5年間の協力を開始している。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>今回募集するインターンはプロジェクトが実施する陸稲・水稲普及業務において、研修実施やモニタリングを通じた効果的な技術移転及びプロジェクト運営を学ぶことを目的とし、下記の業務の中から実習時のプロジェクトの状況とインターンの希望・能力に応じて実習を割り当てることとする。（1）原原種種子生産圃場の維持管理、（2）作付けに係る中核・一般農家へのモニタリング補助、（3）農業省普及員及び中核農家への陸稲栽培・適正収穫後処理技術に関する研修の実施補助（4）「ネリカ栽培ガイド」改訂及び「灌漑水稲栽培技術マニュアル」の作成補助、（5）農業機械（籾摺り精米機、トラクター、耕耘機等）の修理・維持管理補助</p> <p>プロジェクトにおけるインターン期間中における日常の基本的な活動は以下を予定①午前：プロジェクト圃場（研修実施場所）で原原種種子生産にかかる圃場管理補助および品種選定試験等補助など。②午後：これまでのモニタリング等調査結果のとりまとめ補助、その他モニタリング実施に合わせてモニタリングの補助やその他のプロジェクト活動の補助（農業機械の修理など）。</p>			
■参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
<p>1. 普及員、中核農家、農家組織代表を対象とした稲作研修への参加、2. プロジェクト対象4州（中央、東、南、北西部州）のプロジェクト試験圃場での品種維持管理および試験活動への参加、3. 対象州の一般農家へのモニタリング同行・参加、および4. 農業機械維持管理にかかる補助業務</p>			
■受入時期・期間			
<p>2017年 1月中旬 から 3月下旬 までの 2ヶ月間程度</p> <p><input type="radio"/> 調整可 <input checked="" type="radio"/> 調整不可 理由：他業務との都合によるもの</p>			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生とにも可		農業分野専攻者のみ	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
<p>英語の場合は英検2級以上、TOEIC500点、TOEFL470点（iBT52点、CBT150点）、IELTS4.0以上。フランス語は仏検準2級以上、DELFA2以上が望ましい。</p>			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<p><input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用 <input type="checkbox"/> PC貸出し <input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担</p> <p><input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): _____</p>			
■備考・留意点			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

		登録番号	1702-在13
■部署名/事務所名:	ソロモン支所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	ヘルシービレッジ推進プロジェクト		
■テーマ			
村落が主体となったヘルシー・ビレッジ・モデルの構築			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>ソロモン諸島の多くの住民は村落に居住し、交通網の発達が不十分であることから保健医療サービスのアクセスが困難な環境に生活しています。このような状況から、村落住民の健康改善のための取り組みが喫緊の課題となっています。本プロジェクト「Health Promoting Village Project」は、マラリア、NCD（非感染性疾患）、水と衛生、および栄養対策の4分野を基本として、村落住民の健康改善を図ることを前提とし、村落が主体となった取り組みを行うための国家制度を構築することを目的としています。2016年6月末より4年間の予定で開始され、対象地域は、ガダルカナル州およびマキラウワ州です。</p> <p>これまでプロジェクトでは、保健省や州保健局と協議を重ね、国際的に認知されているcommunity health workerをhealthy village promoter (HVP) として導入する運びとなり、彼（女）らの選定や育成、役割の方向性を決めました。プロジェクトの2年目は、保健省、州保健局、対象地域の医療従事者や村人と協働し、HPVへの研修及び制度構築が主な活動内容となっています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>コミュニティにおける活動内容</p> <p>*対象村における村落保健委員会やHPVから、村人の健康状態や健康に対する意識について聞き取り調査を実施する</p> <p>*対象村のHPVに対し、モニタリングシートの記入方法について指導を行う（研修でモニタリングシートの記入方法等の演習を行うが、研修後にフォローアップをすることでデータの質を上げることが目的）</p> <p>*プロジェクト対象村において、上記4つの活動分野に関連するイベントの企画、実行（例えばNCD対策として運動会やスポーツイベント、クッキングデモンストレーション、マラリア対策としてクリーンアップディ等）</p> <p>その他</p> <p>*インターンシップの時期により、HPVや村落保健委員会の研修、もしくは、トレーナーを対象としたTOTが実施される場合には、優先的に参加していただきます。</p>			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/oda/project/1500303/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2018 年 1月以降から 1-3ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由:			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可		保健またはコミュニティ開発	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
途上国の不便さをいとわない人			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input type="checkbox"/> 電話等の利用 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し <input type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): _____			
■備考・留意点			
都市から離れた村での活動が中心となりますので、村落開発に興味のある方で、船外機付き小型ボートでの移動や電気、水道無しのサバイバル生活に耐えられる方をお待ちしております。			